

IAUD Newsletter vol.9 第 9 号(2017 年 1 月号)

1. 「第 6 回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2016 in 名古屋」開催速報…………… 1
2. 「第 15 回 UD 検定初級」「第 9 回 UD 検定中級」開催のご案内…………… 17
3. IAUD 2017 年 1 月の予定…………… 18



世界 30 か国から 12,000 名が来場

「第 6 回国際 UD 会議 2016 in 名古屋」開催速報



「第 6 回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2016 in 名古屋」開会式の様子

新年明けましておめでとうございます。本年も IAUD へのご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

12 月 9 日(金)から 11 日(日)までの 3 日間、「第 6 回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2016 in 名古屋」が名古屋国際会議場(愛知県名古屋市)において開催され、世界約 30 か国と地域から約 12,000 名のご参加をいただき、大変盛況のうちに終了いたしました。

今回は「UD による共有価値の創造」をテーマに、観光や産業振興、非常時の UD について国内外からの専門家を多数お招きし、貴重な講演やセッション、論文発表が行われました。

また、一般市民にも親しみやすい内容でのワークショップや展示会も開催され、多数の方々に UD 関連の製品展示や議論にご参加いただき、UD をより多くの人に理解していただく大変よい機会となりました。

今号の Newsletter では、会期 3 日間の開催速報を写真を中心にをご紹介します。

12月9日(金曜日)

暖かな冬晴れに恵まれた中、総裁の瑠子女王殿下にご臨席賜り、開会式や公開シンポジウムが開催されました。

また、最新のUD事例を展示した併設展示会や、夜には愛知工業大学名電高等学校による吹奏楽コンサート、歓迎レセプションも行われました。

会期中の情報保障については、英語と韓国語、日本語による同時通訳をレシーバーで聴講

できたほか、前方スクリーンに英語と日本語の同時字幕の投影、さらに壇上には日本語の手話通訳が用意されました。また、車いすの貸し出しも行いました。



会場の名古屋国際会議場

■開会式 10時～10時45分 名古屋国際会議場 国際会議室

瑠子女王殿下のご臨席のもと、CBC テレビの富田和音アナウンサーによる司会で開会式が開催されました。

まずは古賀尚文組織委員会会長による開会の辞の後、瑠子女王殿下よりお言葉を頂戴しました。

瑠子女王殿下は、「今年はアメリカで、父の思いと私の思いを伝えるという機会(2016年8月に米国フロリダ州で開催された「AHFE2016(第7回国際応用人間工学会議)」でご講演)がございました。

これは私の人生の経験として、とてもいろいろなことを学び吸収でき、視野が広がったと思っております。この経験がIAUDの総裁として、また、何よりひとりの人間として、皆さまから信頼され少しでも頼りになれる存在だと思っていただけたらと願っております。

この3日間の国際会議で、より強い新しいつながり、そしてみなさん一人ひとりの中で気づき、意欲、ひらめきが生まれますことを心から願っております」とのお言葉を賜りました。

その後、来賓挨拶として安倍晋三内閣総理大臣からのビデオメッセージが放映されました。



満席となった開会式会場



瑠子女王殿下



安倍総理大臣からのビデオメッセージ

安倍総理大臣からは、「2020年にはオリンピック・パラリンピック東京大会が行われます。全員参加型の共生社会の実現に向けて大きな一歩を踏み出すものにするため、UDのまちづくりや心のバリアフリーを推進し、次世代に伝える世界に冠たるバリアフリー社会を創り上げていきます。

今回の会議では、観光や産業振興、災害など非常時のUDについて、議論が交わされると伺いました。観光は成長戦略の大きな柱の1つであり、地方創生の切り札です

また、産業振興や災害など、非常時のUDを実践することは、若者もお年寄りも、女性、男性も難病や障害のある方も、みんなが活躍できる社会、安

倍内閣が取り組む一億総活躍社会を実現するために、成果に大きく期待しております」と、大変励みになるメッセージを頂戴しました。

さらに、開催地を代表して大村秀章愛知県知事、河村たかし名古屋市長、金庭宣雄名古屋市会議員から歓迎のご挨拶を賜りました。

最後に、東海地区信用金庫協会会長の御室健一郎氏からの閉会の辞をもって終了しました。



左より古賀組織委員会会長、大村知事、河村市長、金庭市会議員、御室東海地区信用金庫協会会長

■公開シンポジウム 12時30分～16時 名古屋国際会議場 国際会議室

国内外の専門家による3つ基調講演やワークショップ委員会と研究部会による特別報告、また IAUD アワード 2016 プレゼンテーション・表彰式が開催されました。

◆基調講演 1: デザイン変革

～人間中心デザインによるビジネス及び社会の変革～

レイナー・ウェスラー(フロッグデザイン社副社長・アジア局長:米国)

世界最大規模のデザインファーム「フロッグデザイン社」が、人間中心デザインのアプローチを駆使してビジネスや社会にどんな変革をもたらしているか、具体例を紹介しながらお話していただきました。



レイナー・ウェスラー氏

フロッグデザイン社とは

1969年にプロダクトデザイナーのハルトムット・エスリンガーによってドイツで創立されました。エスリンガーの言葉「人類が月に着陸し、若者は大きな変革を求めてきた。私がただ望んだのは、人々が笑顔でいることだ」に基づき、我々は求められる機能を満たしたうえでユーザーの感情に訴え、寄り添うデザインを手掛けてきました。

弊社の初期のデザインに、アップルコンピューター「Apple IIc」の外装を決定づけたデザイン言語「スノーホワイト」があり、これはアップル社の成功を導きました。

我々は単なる商品のデザインだけでなく、デザインシステムそのもの、ウェブプレゼンテーションアプリなどを通じたビジネス、カスタマーサービスでも事業を進めています。

現在、ブランドや商品は進化し続けるエコシステムと共にリンクしており、我々のクライアントも様々な方法でこの一貫性あるシステムに入り込もうとしています。

プロダクトサービスデザイン

デザインの力は能力そのものです。デザイナーは単に製品のスタイルを表面的に再定義するだけでなく、デザインの影響力を単純な美化を超えた領域にまで広げ、様々な産業の定義を書き換え、天然資源の保全や世界の思考の方向性を変えるところまでカバーできます。

ブランドやビジネスはハイスピードで進み、それが成功すれば、プロダクトデザインは事業にインパクトをもたらします。同時に、ビジネス同士の組織をつなぐ人々へ顧客をつなぐこととなります。

現在も未来も、人々は多くのデータに埋もれています。データが我々のコミュニティを埋めており、人々がデータを共有することで多様なことができるようになります。

プロダクトサービスデザインの例として、交通システムを安全で効率よいものにできるセンサーを搭載したライト、患者と主治医で健康データを共有できるシステム、iPadで遊ぶゲームにリンクできるセンサーを搭載した木製おもちゃ、アルツハイマー病患者を介護するシステムサービスなどがあります。



講演するウェスラー氏

トランスフォーメーション・デザイン

企業経営の事業構造・業務プロセスにおいて、我々はよりよいサービスを提供し、大幅な改革をサポートするデザインをしています。

単なるサービス提供だけでなく、コミュニケーション、市民、従業員、ビジネスなどいろいろなサポートをデザインし、それによってビジネスの様々な部分で変革を起こします。

そして、製品そのものを変えるのではなく、いずれクライアントと共に進化できるデザインのシステムを構築しています。

成功事例として、我々は GE(米国のゼネラル・エレクトリック社)をエンジニアリング会社から世界有数のソフトウェア会社に変革するサポートをしました。

ユーザーエクスペリエンスプレイブックを提供し、ソフトウェアを構築したくなる仕掛けをし、デザインそのものをすぐにビジネスに転換しました。

さらに、パイロットプロジェクトを選んで見える化し、企業にインパクトをもたらしてデザインやシステムの変革を容易に提供できました。

ベンチャーデザイン

ベンチャーデザインは、デザインを手段としてゼロから戦略ビジネス事例を作りあげ、それを人々の生活に提供していくことです

多くの企業がこのデザインを期待しています。世界中でモノの生命が短く競争が高くなっており、イノベーションを続けることが難しくなっているからです。

そこで、我々は「ベンチャープラットフォーム」を開発しました。ベンチャーデザインは、新しいビジネスを創り発展させ、サービスを作ります。デザインは大きな影響力を持つようになっています。

◆基調講演 2: より豊かな生活を実現するためのトヨタの取り組み
澤 良宏(トヨタ自動車株式会社常務役員)

「IAUDとトヨタの関わり」「トヨタのUDの変遷」「UD連携」についてお話しいただきました。



澤 良宏氏

IAUD とトヨタの関わり

弊社は IAUD に入会した 2004 年からこれまで 6 回の国際会議に参加し、より質の高い UD について議論してきました。

2011 年に「トヨタグローバルビジョン」として、「世界中の人々の生活を、社会を、豊かにしていく」「お客様、そして地域の笑顔と幸せのために」を目標とし、モノづくりを通して、「モビリティの発展」「環境への配慮」「お客様一人ひとりの幸せ」のために必要とされる会社でありたいと考えており、これは UD の思想や IAUD の趣旨とも合致しています。

トヨタの UD の変遷

1964 年の東京オリンピック・パラリンピックを契機に、60 年代～80 年代にかけて自動車各社が福祉車両の開発を進めてきました。

さらに、1990 年以降「バリアフリー」「UD」の概念が広まり、1997 年に設計の初期段階から人間工学をもとに UD を積極的に取り入れた市販車「ラウム」を発表しました。

UD を考慮した車の骨格をつくることで福祉車両への展開が容易になり、日本のクルマメーカーは海外に先駆けて、普通車をベースに特別な改造をすることなく福祉車両のアイテムをのせることで、安価でより使いやすい商品をお客さまへ提供できるようになりました。



講演する澤氏

UD 連携

弊社は自動車及び福祉車両、ロボット事業やグループ会社による住宅事業など、生活全体に広がる UD 製品開発を進めています。UD 活動を「環境」「安全」「感動」と並ぶ大切な要素ととらえ、新たなコーポレートの柱の 1 つに育てていきます。

今後は IAUD が掲げる共有価値の創造や、モノからコトへの広がり、といった考え方に賛同し、自動車、ロボット、住宅の開発をまとめ、連携させることにより相乗効果を生み出し、今よりももっと良い商品やサービスをお客様に提供できるようにします。

人間はココロは年をとりますが、カラダは少しずつ衰えていきます。このココロとカラダのギャップを埋めるのが UD の新たな役割です。健康寿命を延ばし、身体能力をマイナスからゼロへ向かわせる「健康維持」「自立支援」はもちろん、人間の能力をプラスにする「拡張」まで考え、UD の概念を今までのように単なるバリアフリー的な解釈だけでなく、本来の身体能力以上のことができる「楽しさの拡張」まで広げます。

弊社は住宅からモビリティまで取り組み領域を拡大し、新たなサービスや商品を提供してゆきます

2020 年の東京オリンピック・パラリンピックは、もう一度日本のより良い社会づくりの発展に、起爆剤としての役割を果たすでしょう。

今後も弊社はグローバルに通じる日本のモノづくりやサービスを強くアピールし、IAUD と共に日本の豊かな社会づくりに貢献して行きます。

◆基調講演3:国産新型ジェット旅客機 MRJに見るデザインシンキング 有賀 寛泰(三菱重工業株式会社総合研究所技監・主幹研究員)

三菱重工業が開発・製造を進めている日本初の国産小型旅客機 MRJ(三菱リージョナルジェット)のデザイン開発過程や UD との関連についてお話いただきました。



有賀 寛泰氏

エクスペリエンスデザイン(コトづくりのデザイン)

MRJ 事業立ち上げの際に、「モノづくり」+製品に対する主観的・情緒的価値を重視する「コトづくり」のデザイン思考への変換が必要でした。

MRJ デザイン開発では、①潜在ニーズの発掘②アイデア発想③プロトタイピングの3つのプロセスを初期段階で回し、顧客を巻き込んだ商品開発を実現して顧客価値創出に貢献しました。

また、①営業支援(販売促進のためのコミュニケーション)②事業支援(事業実現・拡大のためのコミュニケーション)③世論の喚起(①②の目標をサポートするためのコミュニケーション)の3つのデザイン支援を実施し、ビジネス環境を醸成させました。

さらに、「揺れそうで不安」「狭くて窮屈」など小型旅客機への既成概念を変えるデザイン思考を実施し、それらの課題を解決するデザインを取り込むことで、「次も乗りたい」旅客機にしました。

デザイン開発プロセス

今後20年で61席~100席クラスの需要が拡大すると予測し、小型の航空機事業に参入することを決めました。

また、レイアウトの設定や断面形状の設定、プロトタイプツールによる検証、ユーザー・エキスパート評価を繰り返した人間中心デザインを実践しました。

デザイン開発実施例として、「日本的な美しさ」というコンセプトの設定、直線的なノーズデザイン(機首形状)、エントランスや通路のデザイン、オールLED化した照明による演出、薄く軽く快適なシート、広く感じる空間デザインなどがあります。



基調講演会場の様子

フライトデッキのデザイン思考

ユーザー(パイロット)を理解し、シミュレータやモックアップを用いて観察機会の少ないもの、自ら体験できないものを理解し、ユーザー参画のもと検証評価を積み重ねて開発しました。

開発段階に合わせ、①簡易モデル②ハードモデル③シミュレーションモデルのモックアップを活用しました。また、操作系機械類のデザインや操作に集中できるインテリアカラーにも取り組みました。

さらに、タンチョウをモチーフとし、漆の象徴色である「赤黒金」を用いたカラーリングは、MRJのシンボルマークとして使用され、ブランドイメージを高める効果があり、MRJのパーソナリティを浸透させ、ステークホルダーとの信頼の醸成にも繋がりました。

MRJは2016年9月に北米へのフェリーフライトが完了し、現在はTC取得を目指して試行訓練を実施しております。近い未来、MRJに搭乗出来ることを楽しみにお待ちしております。

◆特別報告:教育のUD～初等教育から生涯学習まで(1)
「名古屋市こどもUDワークショップ」開催報告



発表する名古屋市立栄小学校と名古屋市立鶴舞小学校の生徒たち

標準化研究ワーキンググループが、名古屋市立栄小学校4年生クラスと名古屋市立鶴舞小学校4年生クラスで2016年5月から5か月間にわたり実施した「こどもUDワークショップ」について、参加した生徒の皆さんが実施内容とその成果を発表しました。

子供たちはUDについて4つの商品を提案したり、手話を使いながら歌を披露するなど感動的な発表に、会場からは大きな拍手が起こり、最後の質疑応答では大変感銘を受けたとのコメントが参加者から多数上がりました。

瑠子女王殿下からも、「これから日常生活を過ごしていくことで、考え方が変わったり、新たな発見が出てくると思いますが、一番最初に皆さんが感じたことを忘れないでほしい。この発表をしてくれた中から(UDの)プロフェッショナルが出てくれたら、IAUDの総裁として嬉しい。今日の発表では皆さんがそれぞれの役割をできたので、私は100点の評価を上げたい」と、大変温かいお言葉を頂戴しました。



お言葉を述べられる瑠子女王殿下

◆特別報告:教育のUD～初等教育から生涯学習まで(2)
「48時間デザインマラソン 2016 in 東京」開催報告

ワークショップ委員会が2006年より実施している特別ワークショップ「48時間デザインマラソン」の報告がありました。

まずは、2015年度開催よりプレゼンテーション会場提供や地元企業との連携にご協力いただいている東京東信用金庫の澁谷哲一会長からご挨拶がありました。

その後、2016年9月に開催した「48時間デザインマラソン 2016 in 東京」の開催報告と、2015年9月に実施



澁谷会長(左)と浜野代表取締役

した「48時間デザインマラソン 2015 in 東京」で提案されたアイデアの中から、商品化に向けてプロトタイプが製作された「Premium Fits」(誰もが使いやすいフィッティングルーム)と「下町のれん」(形や香りを使って店の商品を示すのれん)の紹介がありました。

最後に、商品化プロジェクトにご協力いただいている(株)浜野製作所の浜野慶一代表取締役より、今後の連携についてのお話がありました。

■IAUD アワード 2016 プレゼンテーション/表彰式
16時20分～18時 名古屋国際会議場 国際会議室

国内外より応募のあった59件のエントリーの中から、IAUD アワード 2016 審査委員会(委員長:ロジャー・コールマン英国王立芸術大学院名誉教授)による厳正・中立な審査の結果、「大賞」は富士通株式会社の「誰もが公平にソフトウェアを使える社会に向けた新しい GUI デザイン基盤」と、デンマーク筋ジストロフィー財団/ムスホルム・ホリデー・スポーツ・コンファレンスの「ムスホルム・ホリデー・スポーツ・コンファレンス」の2点が選定され、「共同大賞(ジョイント・グランド・アワード)」が授与されました。



IAUD アワード 2016 審査委員

また、各部門の「金賞」7件と「銀賞」12件、UDにおいて一定の基準を満たしたものに対して「IAUD アワード」34件も選定されました。

各受賞者には清水隆明実行委員長より表彰状が授与され、大賞と金賞受賞者による取り組みを紹介するプレゼンテーションが行われました。

また、会場内イベントホールでは、「IAUD アワード 2016」を受賞した取り組みが展示されました。



清水実行委員長(写真右)より表彰状が授与された大賞受賞の富士通の久野氏



大賞受賞のプレゼンテーションをするデンマーク筋ジストロフィー財団

※受賞結果と審査講評の詳細はこちらをご覧ください。

IAUD アワード 2016 受賞結果発表: <https://www.iaud.net/award/8109/>

IAUD アワード 2016 審査講評 <https://www.iaud.net/award/8077/>

※大賞と金賞受賞の取り組み内容は、2月号からの Newsletter に順次掲載します。

■愛知工業大学名電高等学校吹奏楽コンサート
18時～19時 名古屋国際会議場 センチュリーホール

併催事業として愛知工業大学名電高等学校による吹奏楽コンサートが開催されました。



迫力ある演奏だった吹奏楽コンサート

■歓迎レセプション 19時30分～21時 名古屋国際会議場 B1 レストラン

瑤子女王殿下にご臨席いただく中、会議出席者への歓迎の意を表すと共に本会議の成功を祈念して、レセプションが開催されました。

まずは古賀尚文組織委員長による開会の挨拶の後、河村たかし名古屋市長による歓迎の挨拶、森岡仙太愛知県副知事による乾杯のご発声、中部デザイン団体協議会会長の山内瞬葉氏より来賓の挨拶がありました。

また、地元名古屋の名妓連の舞妓さん、芸妓さんによる舞踊と音曲の披露がありました。

その後、参加者間で和やかな歓談が行われ、清水隆明実行委員長の挨拶で終了しました。



歓迎レセプション鏡開きの様子



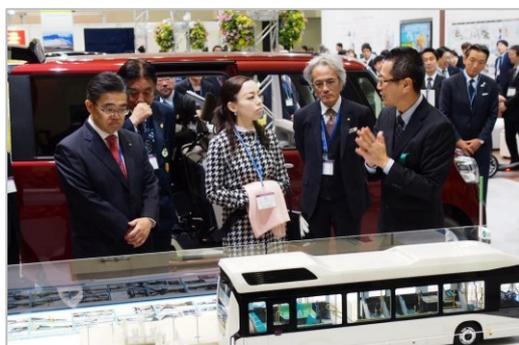
左より古賀組織委員長、河村市長、森岡副知事、山内中部デザイン団体協議会会長、清水実行委員長

■展示会 12時～18時 名古屋国際会議場 イベントホール

9日から11日の3日間、一般公開で開催された併設展示会では、国内外の企業や大学、団体が多数出展し、「次世代タクシー」「鉄道員見習『あすなロボ』」「360°画像・動画ジェスチャー操作」「ベンチスタイル・バス」など、最新UDに関する実例や製品、研究が展示されました。

また、一般公開に先立ち、9日には内覧会が行われ、瑤子女王殿下も大村秀章愛知県知事と河村たかし名古屋市長とご一緒にご観覧になりました。

瑤子女王殿下は各ブースをご覧になり、UDに対する取り組みについての説明をご熱心にお聞きになられたり、UD製品を手にとって実際にお試しになられました。



各ブースの展示をご覧になる瑤子女王殿下

研究部会ブースでは、住空間プロジェクト、移動空間プロジェクト、余暇の UD プロジェクト、衣の UD プロジェクト、ワークスタイルプロジェクト、手話用語サブワーキンググループによるセッションが実施され、これまでの活動内容が発表されました。

また、「48 時間デザインマラソン」「名古屋市小学校 UD 教育」の成果報告も展示されました。



研究部会によるセッションの様子

■ポスターセッション 10 時 50 分～16 時 20 分 名古屋国際会議場 会議室 141 前ロビー

国内外から応募のあった 89 の論文の中から審査を通過した 22 本の論文を、9 日と 10 日の 2 日に分けてポスター形式で掲示されました。

12 月 10 日(土曜日)

2 日目は国内外から UD 専門家をお迎えし、今回の会議のサブテーマである「観光の UD」「産業振興の UD」「UD による共有価値の創造」について 5 つのセッションが行われました。

また、国内外の専門家をファシリテーターに、一般市民や学生にも親しみやすいテーマでの公開ワークショップやランチョンセミナー、論文発表セッションなども実施しました。

さらに、「第 8 回 UD 検定・中級試験」「第 14 回 UD 検定・初級講習会 & 検定試験」も同時開催されました。

※各セッションの概要は近日中に IAUD 公式サイトに掲載します。



セッション 1 会場の様子

■セッション 1:観光の UD 1 ～ 世界の観光都市からの報告 9 時 10 分～10 時 30 分 名古屋国際会議場 国際会議室



左よりバララム氏、エイクハウグ氏、マジュースキ氏、アラガイ氏

■セッション 2: 観光の UD 2 ～ 名古屋を観光都市にする方策
10 時 50 分～12 時 10 分 名古屋国際会議場 国際会議室



左より安倍氏、山内氏、バーデ氏

安倍 武利(JIDA 中部ブロック会員)
山内 瞬葉(中部デザイン団体協議会会長)
トーマス・バーデ(UD 研究所所長:ドイツ)
司会進行:高橋 陽子
(IAUD 評議員/日本フィランソロピー協会理事長)



セッション 2 会場の様子→

■ランチョンセミナー「パナソニックの UD の取り組み」
12 時 10 分～13 時 20 分 名古屋国際会議場会議室 141/142

ランチタイムに食事しながら実施するセミナー。
今回はパナソニック株式会社は同社の UD の理念を具
体的商品や研究を交えて解説した後、2020 年の東京オ
リンピック・パラリンピックに向けた最新の取り組みを紹
介しました。



ランチョンセミナー会場の様子→

■セッション 3: 産業振興の UD 1 ～ デザインシンキングによる共有価値の創造
13 時 20 分～14 時 40 分 名古屋国際会議場 国際会議室



左より粥川氏、郷氏、剣持氏、リンネンマン氏

粥川 宏(トヨタ自動車 TCカンパニーTC製品企画 ZP
チーフエンジニア)

郷 武志(トヨタ自動車TCカンパニーデザイン部プロジ
ェクトチーフデザイナー)

剣持 秀紀(ヤマハ株式会社研究開発統括部新規事
業開発部部长)

ポー・リンネマン(コントラプンクト代表:デンマーク)

司会進行:山中 敏正(IAUD 評議員/筑波大学教授)



セッション 3 会場の様子

■セッション 4:産業振興の UD 2 ～ 地域産業における製品と市場の見直し

15 時～16 時 20 分 名古屋国際会議場 国際会議室



←左よりウィルコックス氏、
バララム氏、長谷川氏

スティーブン・ウィルコックス

(デザインサイエンス社代表:米国)

パドミニ・バララム

(シルパ・サダナ・ヴィスバ・バラティ大学教授:インド)

長谷川 尚彦(長谷川刃物株式会社社長)

司会進行:岩崎 昭浩(IAUD 参事)



セッション 4 会場の様子→

■セッション 5:UD による共有価値の創造 1 ～UD 国際規格は可能か

16 時 40 分～18 時 名古屋国際会議場 国際会議室



←左より藤代氏、
ギーラオ氏、アラガイ氏

藤代 尚武
(経済産業省産業技術環境局国際標準課長)
ラーマ・ギーラオ
(王立芸術大学院ヘレンハムリンセンター所長:英国)
フランセスク・アラガイ
(IAUD 評議員/デザインフォーオール財団代表:スペイン)
司会進行:草間 敏晴(IAUD 参事)



セッション 5 会場の様子

■UD 公開ワークショップ 1 ~地方創生について~
9 時 30 分~10 時 30 分 名古屋国際会議場 会議室 432



会場内を移動しながら行われた UD 公開ワークショップ 1

ミーガン・ダフレイン(米国人間中心設計研究所 プロジェクトマネージャー:米国)
川内 美彦(東洋大学教授)

■UD 公開ワークショップ 2 ~観光について~
13 時 20 分~14 時 40 分 名古屋国際会議場 会議室 432

ラーマ・ギーラオ(王立芸術大学院ヘレンハムリンセンター所長:英国)
オンニ・エイクハウグ(ノルウェーデザイン&建築センタープログラムリーダー:ノルウェー)
フランセスク・アラガイ(IAUD 評議員/デザインフォーオール財団代表:スペイン)



UD 公開ワークショップ 2 の様子→

■論文発表セッション 名古屋国際会議場 会議室 141/142

国内外から応募のあった 89 の論文の中から厳正な審査を通過した論文を 10 日と 11 日の 2 日間、テーマごとに 7 のセッションに分けて発表されました。
10 日は「住宅」「建築・施設」「人間工学・製品」「交通関係」「医療・福祉関連」、11 日は「理念・教育」「情報 UD」をテーマにした論文が発表されました。

12月11日(日曜日)

会議最終日には、3日間にわたる会議全体を総括する4つのセッションが実施されました。

また、閉会式では優秀論文の表彰や、「国際ユニヴァーサルデザイン宣言 2016」が発表され、3日間の会議が無事に終了しました。

※各セッションの概要は近日中にIAUDの公式サイトに掲載します。



セッション9の様子→

■セッション6:UDによる共有価値の創造2～超高齢社会における持続可能なデザイン 9時10分～10時30分 名古屋国際会議場 国際会議室



←左より柴田氏、
荒井氏、和田氏

柴田 崇徳(産業技術総合研究所人間情報研究部門
上級主任研究員)

荒井 利春(金沢美術工芸大学名誉教授)

和田 義行(名古屋芸術大学教授)

司会進行:藤木 武史(IAUD 参事)



セッション6会場の様子→

■セッション7:非常時のUD～安全・安心の備え 10時50分～12時10分 名古屋国際会議場 国際会議室



←左より桑名氏、
中尾氏、篠崎氏

桑名 秀明(鹿島建設株式会社都市防災・風環境グループ主任研究員)

中尾 洋子(パナソニック株式会社デザイン戦略室先行開発課課長)

篠崎 健三(NITE 製品評価技術基盤機構中部支所製品安全技術課課長)

司会進行:ヴァレリー・フレッチャー

(IAUD 評議員/米国人間中心デザイン研究所所長:米国)



セッション7の登壇者

■セッション8: 2020年に向けて~UD社会をレガシーとして遺す

13時20分~14時40分 名古屋国際会議場 国際会議室

上原 大祐

(NEC、バンクーバーパラリンピック銀メダリスト)

増田 豊(全日本空輸株式会社)

伊吹 祐輔

(日本財団パラリンピックサポートセンター)

司会進行:奥田 高子(IAUD 理事)



左より上原氏、増田氏、伊吹氏→

元銀メダリストの上原氏より、パラリンピアン、車いすユーザとしての体験から課題提起があり、その課題に対する回答として、増田氏と伊吹氏より現在行っているUD関連活動の紹介がありました。

また、2020年のパラリンピックを契機として、これらの活動や街のUD化という考え方をレガシーとして遺していくためには何が必要かディスカッションが行われました。



セッション8会場の様子

■セッション9:クローズングセッション UDによる共有価値の創造

15時~16時20分 名古屋国際会議場 国際会議室

ラーマ・ギーラオ(英国王立芸術大学院ヘレンハムリンセンター所長:英国)

ヴァレリー・フレッチャー(IAUD 評議員/米国人間中心デザイン研究所所長:米国)

フランセスク・アラガイ(IAUD 評議員/デザインフォーオール財団代表:スペイン)

高橋 陽子(IAUD 評議員/日本フィランソロピー協会理事長)

司会進行:川原 啓嗣(IAUD 専務理事)



左より高橋氏、ギーラオ氏、アラガイ氏、フレッチャー氏

今回の国際会議を総括し、成果は何か、新たに明らかになったことは何か、今後の議論ポイントは何か等について、川原啓嗣専務理事をコーディネーターに、各国の UD 関連団体の代表や専門家の方々と話し合いが行われました。

また、瑤子女王殿下より御言葉を頂戴しました。



お言葉を述べられる
瑤子女王殿下→

■閉会式 17時～17時40分 名古屋国際会議場 国際会議室

伊久哲夫実行副委員長よりからの開会の辞の後、論文審査副委員長の古瀬敏氏より、国内外から応募のあった89の論文から選出された優秀論文2本の発表が行われ、清水隆明実行委員長より表彰状が授与されました。

優秀論文を受賞した久保氏(写真左)に
表彰状を授与する清水実行委員長→



優秀論文

- ・「Using public views on autonomous vehicles to shape the design of our future cities」
Dale Harrow, Rama Gheerawo, Gail Ramster ,Mike Saunders
(Royal College of Art Helen Hamlyn Centre for Design, Commonplace Digital Ltd.: UK)
- ・「Universal Design Utilizing Haptic Feedback to Improve Touchscreen Operations
-Study on tactile reaction of the touchscreen operation of visually impaired, deafness
and the physical unimpaired person-」
Masayoshi Kubo ,Naoya Bessho (Kyoto Institute of technology: Japan)

最後に清水実行委員長から、「国際ユニヴァーサルデザイン宣言2016」が読み上げられ、3日間にわたる国際会議が閉幕しました。

「第6回国際ユニヴァーサルデザイン会議2016 in 名古屋」開催に向け、皆様には様々な面で絶大なるご支援、ご協力を賜り、誠にありがとうございました。

IAUD はこれからも、今回の国際会議で得たもの、課題となったものなど、会議の総括をしっかりと行い、次のステップに繋がりたいと考えています。



大会宣言が発表された



←左より伊久実行副委員長、
古瀬論文審査副委員長、
清水実行委員長

国際ユニヴァーサルデザイン宣言 2016

私たちはここ名古屋に集い、
「ユニヴァーサルデザインによる共有価値の創造」をテーマに、
真摯で多様な議論を交わした。
私たちの社会は常に排除と包摂の間で揺れ動いている。
不寛容の波に対して、私たちは寛容を語りたい。
分断の波に対して、私たちは交流を語りたい。
柔軟であること、
デザインワークショップに参加した子どもたちは、
私たちに大きな示唆を与えてくれた。
デザインにおける思考が新たな展開の扉を開こうとしている。
ユニヴァーサルデザインはモノのデザインを超えて、
社会のあり方全般のデザインに対しても、大きな役割を發揮できるだろう。
私たちはどんな社会を目指すのか。
この会議が新たなネットワークを広げ、
さらなる議論につながることを確信して、
大会宣言とする。



東京開催！オリンピック・パラリンピックのヴォランティアにも役立つ 第15回初級 講習会 & 検定試験 第9回中級 事前講習会、検定試験のご案内

第15回 UD 検定・初級 講習会 & 検定試験

日時: 2月27日(月) 12:45~15:45

会場: NEC 本社ビル(東京・芝)

講師: 古瀬 敏氏(静岡文化芸術大学名誉教授)

講習会(2時間)とUD 検定・初級試験(1時間・50問)のセット形式で実施します。

合格後に「UD 検定・初級 認定証」を発行します。
名刺への記載も可能です。

※詳細は以下のリンクを御参照ください。

https://www.iaud.net/ud_certification/8173/



第14回初級検定の様子(愛知・名古屋)

UD 検定・中級検定試験 事前講習会

日時: 2月14日(火) 9:30~17:00

会場: コクヨ株式会社 東京品川オフィス(東京・品川)

講師: 古瀬 敏氏(静岡文化芸術大学名誉教授)

和田 紀彦氏(IAUD 検定委員)

UD 検定・中級公式テキストブック「知る、わかる、UD」の検定ポイント解説を中心に、UDに関するさまざまな知識や情報を講習します。また、昼休みにはコクヨ株式会社のオフィス見学を行います。

第9回 UD 検定・中級 検定試験

日時:2月27日(月) 9:30~11:30

会場:NEC 本社ビル(東京・芝)

試験方式:2時間・140問 ペーパーテスト。問題は公式テキストブックに準拠して出題します。

合格後は「UD 検定・中級 認定証」を発行します。名刺への記載も可能です。

※詳細は以下のリンクを御参照ください。

https://www.iaud.net/ud_certification/8178/



2017年1月の予定

月	火	水	木	金	土	日
2 振替休日	3 冬期休業	4 冬期休業	5	6	7	1/8
9	10 15:00~ 情報交流センター @IAUD サロン	11	12	13	14	15
16	17	18 13:00~ 移動空間 @総合車両製作 所	19 15:00~ 住空間 PJ @積水ハウス 15:00~ ワークスタイル PJ @IAUD サロン	20	21	22
23	24	25 15:00~ 運営委員会 @IAUD サロン	26 14:00~ 衣の UDPJ @IAUD サロン	27 13:00~ 手話用語 SWG @IAUD サロン 13:30~ 標準化研究 WG @トヨタ自動車	28	29
30	31					

次号は2017年2月発行予定

特集:「IAUD アワード2016」受賞紹介ほか

無断転載禁止

IAUD 情報交流センター(IAUD サロン):

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4階

電話:03-5541-5846 FAX:03-5541-5847 e-mail:info@iaud.net